TADOKU JUNIOR ラガディ・アン ★★★★☆ ながい 978語

Raggedy Ann and the Washing

ラガディ・アンとおせんたく

Johnny Gruelle（1918年の本） 原文そのまま 朗読：Phil Chenevert

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ きげんのわるいマーセラがほうり投げたラガディ・アンは、せんたく物のかごの中へ。そのままおせんたくされてしまい……。

"Why, Dinah! How could you!"

Mamma looked out of the window and saw Marcella run up to Dinah and take something out of her hand and then put her head in her arm and commence crying.

"What is the trouble, Dear?" Mamma asked, as she came out the door and knelt beside the little figure shaking with sobs.

Marcella held out Raggedy Ann. But such a comical looking Raggedy Ann!

Mamma had to smile in spite of her sympathy, for Raggedy Ann looked ridiculous!

Dinah's big eyes rolled out in a troubled manner, for Marcella had snatched Raggedy Ann from Dinah's hand as she cried, "Why, Dinah! How could you?"

Dinah could not quite understand and, as she dearly loved Marcella, she was troubled.

Raggedy Ann was not in the least downhearted and while she felt she must look very funny she continued to smile, but with a more expansive smile than ever before.



Raggedy Ann knew just how it all happened and her remaining shoe-button eye twinkled.

She remembered that morning when Marcella came to the nursery to take the nighties from the dolls and dress them she had been cross.

Raggedy Ann thought at the time "Perhaps she had climbed out of bed backwards!" For Marcella complained to each doll as she dressed them.

And when it came Raggedy's time to be dressed, Marcella was very cross for she had scratched her finger on a pin when dressing the French doll.

So, when Marcella heard the little girl next door calling to her, she ran out of the nursery and gave Raggedy Ann a toss from her as she ran.

Now it happened Raggedy lit in the clothes hamper and there she lay all doubled up in a knot.

A few minutes afterwards Dinah came through the hall with an armful of clothes and piled them in the hamper on top of Raggedy Ann.

Then Dinah carried the hamper out in back of the house where she did the washing.

Dinah dumped all the clothes into the boiler and poured water on them.

The boiler was then placed upon the stove.

When the water began to get warm, Raggedy Ann wiggled around and climbed up amongst the clothes to the top of the boiler to peek out. There was too much steam and she could see nothing. For that matter, Dinah could not see Raggedy Ann, either, on account of the steam.

So Dinah, using an old broom handle, stirred the clothes in the boiler and the clothes and Raggedy Ann were stirred and whirled around until all were thoroughly boiled.

When Dinah took the clothes a piece at a time from the boiler and scrubbed them, she finally came upon Raggedy Ann.

Now Dinah did not know but that Marcella had placed Raggedy in the clothes hamper to be washed, so she soaped Raggedy well and scrubbed her up and down over the rough wash-board.

Two buttons from the back of Raggedy's dress came off and one of Raggedy Ann's shoe-button eyes was loosened as Dinah gave her face a final scrub.

Then Dinah put Raggedy Ann's feet in the wringer and turned the crank. It was hard work getting Raggedy through the wringer, but Dinah was very strong. And of course it happened! Raggedy Ann came through as flat as a pancake.



It was just then, that Marcella returned and saw Raggedy.

"Why, Dinah! How could you!" Marcella had sobbed as she snatched the flattened Raggedy Ann from the bewildered Dinah's hand.

Mamma patted Marcella's hand and soon coaxed her to quit sobbing.

When Dinah explained that the first she knew of Raggedy being in the wash was when she took her from the boiler, Marcella began crying again.

"It was all my fault, Mamma!" she cried. "I remember now that I threw dear old Raggedy Ann from me as I ran out the door and she must have fallen in the clothes hamper! Oh dear! Oh dear!" and she hugged Raggedy Ann tight.

Mamma did not tell Marcella that she had been cross and naughty for she knew Marcella felt very sorry. Instead Mamma put her arms around her and said,

"Just see how Raggedy Ann takes it! She doesn't seem to be unhappy!"

And when Marcella brushed her tears away and looked at Raggedy Ann, flat as a pancake and with a cheery smile upon her painted face, she had to laugh. And Mamma and Dinah had to laugh, too, for Raggedy Ann's smile was almost twice as broad as it had been before.



"Just let me hang Miss Raggedy on the line in the bright sunshine for half an hour," said Dinah, "and you won't know her when she comes off!"

So Raggedy Ann was pinned to the clothes-line, out in the bright sunshine, where she swayed and twisted in the breeze and listened to the chatter of the robins in a nearby tree.

Every once in a while Dinah went out and rolled and patted Raggedy until her cotton stuffing was soft and dry and fluffy and her head and arms and legs were nice and round again.

Then she took Raggedy Ann into the house and showed Marcella and Mamma how clean and sweet she was.

Marcella took Raggedy Ann right up to the nursery and told all the dolls just what had happened and how sorry she was that she had been so cross and peevish when she dressed them. And while the dolls said never a word they looked at their little mistress with love in their eyes as she sat in the little red rocking chair and held Raggedy Ann tightly in her arms.

And Raggedy Ann's remaining shoe-button eye looked up at her little mistress in rather a saucy manner, but upon her face was the same old smile of happiness, good humor and love.



「まあ、ダイナ！なんてことをしたの！」

ママがまどから外を見ると、マーセラがダイナのところへかけよって、その手から何かをとり上げ、うでに顔をうずめてなき出すのが見えました。

「どうしたの？」ママはそう聞きながら外に出てきて、しくしくとしゃくりあげている小さな体のそばにひざをつきました。

マーセラはラガディ・アンをさし出しました。でも、なんてへんてこなすがたのラガディ・アンでしょう！

ママはかわいそうに思いながらも、思わずにっこりしてしまいました。ラガディ・アンがあまりにもおかしなかっこうだったからです！

ダイナは大きな目をきょろきょろさせて、こまっていました。マーセラが「まあ、ダイナ！なんてことをしたの？」とさけびながら、ダイナの手からラガディ・アンをひったくったからです。

ダイナには、わけがよくわかりませんでした。マーセラのことが大すきだったので、こまってしまいました。

ラガディ・アンはちっともがっかりしていませんでした。自分がとてもおかしなかっこうに見えるのはわかっていましたが、それでもにこにこしていました。しかも、これまでよりもずっと大きなえがおでした。

ラガディ・アンには、どうしてこうなったのか、ちゃんとわかっていました。のこったほうのくつボタンの目が、きらりと光りました。

その朝、マーセラが子ども部屋に来て、人形たちのねまきをぬがせて服を着せたとき、きげんがわるかったのをおぼえていたのです。

そのときラガディ・アンは、「ねおきのきげんがわるいのかしら！」と思いました。マーセラは、人形に服を着せながら、ひとりひとりにもんくを言っていたのです。

そして、ラガディが服を着せてもらう番になったときには、マーセラはすっかりきげんがわるくなっていました。フランス人形に服を着せているとき、ピンで指をひっかいてしまったからです。

それで、となりの女の子によばれる声を聞くと、マーセラは子ども部屋からかけ出し、走りながらラガディ・アンをぽいっとほうり投げました。

ところが、ラガディはせんたく物入れのかごの中に落ちて、そこで体をくしゃっとまるめたまま、横になっていました。

何分かすると、ダイナがせんたく物をかかえてろうかを通り、それをかごの中のラガディ・アンの上につみかさねました。

それからダイナは、そのかごを家のうらの、いつもせんたくをする場所へはこんでいきました。

ダイナはせんたく物をぜんぶ、せんたく物をにる大なべに入れて、水をそそぎました。

それから、大なべはストーブの上におかれました。

お湯があたたまってくると、ラガディ・アンはもぞもぞ動いて、せんたく物のあいだをよじのぼり、大なべのいちばん上から外をのぞこうとしました。でも湯気がいっぱいで、何も見えませんでした。それに、湯気のせいで、ダイナのほうでもラガディ・アンが見えませんでした。

そこでダイナは古いほうきのえで大なべのせんたく物をかきまぜたので、せんたく物もラガディ・アンも、ぐるぐるかきまわされ、すっかりにられてしまいました。

ダイナがせんたく物を一まいずつ大なべからとり出してごしごしあらっていると、とうとうラガディ・アンが出てきました。

ダイナは、マーセラがあらってもらおうとラガディをかごに入れたのかもしれないと思ったので、ラガディに石けんをよくつけて、でこぼこのせんたく板の上で、上へ下へとごしごしこすりました。

ラガディのドレスのせなかのボタンが二つとれ、さいごに顔をこすったとき、くつボタンの目の一つがゆるんでしまいました。

それからダイナは、ラガディ・アンの足を、せんたく物をしぼるローラーにはさんで、ハンドルを回しました。ラガディをローラーに通すのはたいへんでしたが、ダイナはとても力もちでした。そして、もちろん、そうなってしまいました！ラガディ・アンは、ホットケーキみたいにぺちゃんこになって出てきたのです。

ちょうどそのとき、マーセラがもどってきて、ラガディを見たのでした。

「まあ、ダイナ！なんてことをしたの！」マーセラはそう言ってなきながら、どうしていいかわからないダイナの手から、ぺちゃんこのラガディ・アンをひったくったのでした。

ママはマーセラの手をやさしくたたいて、まもなくなきやませました。

ダイナが、大なべからとり出したときにはじめてラガディが入っていると気づいたのだと話すと、マーセラはまたなき出しました。

「みんなわたしがわるいの、ママ！」とマーセラはなきながら言いました。「今思い出したわ。ドアから走って出るとき、大すきなラガディ・アンをほうり投げたの。それで、せんたく物のかごに落ちたにちがいないわ！ああ、どうしよう！ああ、どうしよう！」そう言って、マーセラはラガディ・アンをぎゅっとだきしめました。

ママは、マーセラがきげんをわるくして、わるい子だったとは言いませんでした。マーセラがとてもすまなく思っているのがわかっていたからです。そのかわりに、ママはマーセラをだきよせて言いました。

「ラガディ・アンを見てごらんなさい！ちっとも悲しそうじゃないわよ！」

マーセラがなみだをふいてラガディ・アンを見ると、ホットケーキみたいにぺちゃんこなのに、絵の具でかいた顔には元気なえがおがうかんでいたので、思わずわらってしまいました。ママもダイナも、わらわずにはいられませんでした。ラガディ・アンのえがおが、前の二ばいくらい大きくなっていたからです。

「ラガディおじょうさんを、明るいお日さまの下で、ものほしづなに三十分ほどつるさせてくださいな」とダイナが言いました。「とりこんだら、だれだかわからないくらいきれいになりますよ！」

そこでラガディ・アンは、明るい日なたのものほしづなにとめられ、風にゆらゆら、くるくるゆれながら、近くの木でさえずるコマドリたちのおしゃべりを聞いていました。

ダイナはときどき外に出て、ラガディをころがしたり、ぽんぽんたたいたりしました。そうして、中のわたがふんわりやわらかくかわき、頭もうでも足も、またきれいにまるくなりました。

それからダイナはラガディ・アンを家の中へつれていき、マーセラとママに、すっかりきれいでいいにおいになったところを見せました。

マーセラはラガディ・アンをすぐに子ども部屋へつれていき、人形たちみんなに、何があったのかを話しました。そして、服を着せたときにきげんがわるくて、ぷりぷりしていたことを、とてもすまなく思っていると言いました。人形たちはひとことも言いませんでしたが、小さな赤いゆりいすにすわってラガディ・アンをぎゅっとだきしめている小さなご主人さまを、やさしい目で見つめていました。

そしてラガディ・アンののこったくつボタンの目は、ちょっぴりいたずらっぽく小さなご主人さまを見上げていましたが、その顔には、いつもと同じ、しあわせとごきげんとやさしさのこもったえがおがうかんでいました。

たんご と クイズ　ラガディ・アンとおせんたく

hamper せんたく物入れのかご	**boiler** （せんたく物をにる）大なべ	**wash-board** せんたく板
buttons ボタン	**wringer** せんたく物をしぼるローラー	**pancake** ホットケーキ
robins コマドリ		

Q1 ラガディ・アンは、どこに落ちてしまった？

① ストーブの上　② 庭のしばふ　③ せんたく物のかご

Q2 ローラーを通ったラガディ・アンは、どうなった？

① まっ赤になった　② ホットケーキみたいにぺちゃんこ　③ 小さくちぢんだ

Q3 「みんなわたしがわるいの」と言ったのはだれ？

① マーセラ　② ダイナ　③ ママ

こたえ

Q1 ③ マーセラにほうり投げられたラガディ・アンは、せんたく物入れのかごの中に落ちてしまいました。

Q2 ② せんたく物をしぼるローラーを通ったので、ホットケーキみたいにぺちゃんこになってしまいました。

Q3 ① マーセラは、自分がラガディ・アンをほうり投げたせいだと思い出して、こう言いました。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #18190（Johnny Gruelle、1918年）。パブリックドメイン。
挿絵：Johnny Gruelle（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Phil Chenevert（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。